

自粛の中の出来事



渡島医師会
望ヶ丘医院

田 中 慈 雄

新型コロナウイルスの影響で、さまざまなものが自粛された。勉強会、講演会は中止された。私の所属学会はweb開催となった。旅行はおろか外出も自粛、空気さえもマスク越しに吸わなければならない。自粛だ、自粛だ、自粛だワッショイ、と思ってたら、今年も緑陰随想の依頼が来た。自粛してなかったのね。しかし、私自身は自粛マインドに包まれているのか、いつもなら緑陰随想の原稿くらい、ちょちょいのちょい（死語？）なのだが、とにかく今年は文章が続かない。いわゆるスランプというやつなのだろうか。締め切りまであとわずかなので、何とか体裁を整えなければならない。題材は何でも構いませんとのことなのだが、何かあったらうか。

そうそう、母が大腸癌になった。今年に入ってから胃部の痛みを訴えるようになり、身内だからというわけではないが、あまり何も考えずに腹部CTを撮影したら、回盲部あたりに軟部陰影が…。大腸は便が紛らわしく見えることも多く、何度か大腸癌と思って騙されたことがあったが、私の中では大腸癌はほぼ確定。そこで、大腸の内視鏡精査をしなければならないことを母に告げると検査を嫌がった。なんでも羞恥心からのことらしい。84歳にもなって何をそんなことを（母親とはいえ、思っても口にはださず）。そこで、母の所属する合唱団の指揮者でもある市立函館病院消化器内科の畑中一映先生に丸投げ、もとい指揮をお願いしたところ、指揮者のタクトには母もおとなしく従い、内視鏡検査を施行してもらったらやはり盲腸に進行癌があった。そのため、外科に転科し、消化器外科の笠島浩行先生に手術していただいた。

母の手術までの間に、いろいろ考えることがあった。まず、母のCT画像をもう一度見直してみた。人それぞれさまざまなタイプがあろうが、私は身内の診療は目が曇るタイプのようで、当初は回盲部の軟部陰影（癌）しか目が行かなかったが、冷静になればそれではイカンのである。癌の読影の基本は、部位、大きさ、形態、周囲への浸潤の有無、リンパ節、遠隔転移の有無などを見なければならないと教わった。身内であり慌てたのか、あるいは函病でやるからいいや、と思ったのか、造影剤を打っていない。癌の読影はやはり造影CTが欲しい。が、本人は入院中。単純CTで、観察可能なところを見てみよう。部位はちょうどバウヒン弁のあたりで大きさは4.8cmくらい。大腸癌の場合、大きさよりも壁深達度のほうが重要とはいえ、わりと大きく、笠島先生も腹腔鏡下腫瘍摘出術と言っていたから、固有筋

層までということは無いだろうな、とするとstageはⅡ以上か。リンパ節転移の有無で、ⅡかⅢの判断が変わる。リンパ節はどうか、むむ、周辺のリンパ節が5個ほど見えているではないか。有意な大きさ（10mm以上）では無いが、コロっとした形で転移かもしれない。ものの本には癌の転移だけではなく消化管腫張による炎症に伴ってリンパ節が描出されてくることもある、と書いてある。癌の診断の基本として疑わしきは軽く判定する、ということがあるが、身内の診断は疑わしきは重く判定する傾向が私にはあるようで、これは転移が疑わしいと判断し、Ⅲ以上、中間リンパ節にもいってそうだぞ、ではⅢbかもしれないな。と判断した。肝左葉外側区下部に小さな淡い低吸収域があり、通常では転移の可能性もあると判断されるが、7年前の腹部CTでも同様の変化があるので、これは紛らわしい嚢胞と考えた。大腸癌のstageⅢb、こりゃ術後化学療法も必要だろうか、ただ、84歳だから、化学療法はしなくても良いかな。5年生存率は、Ⅲだと7割くらいか。

手術中、家族は待機を求められる。何かあったときの説明と了解を求められるのであろうが、そのような時はあまり良いことでないことが多いと思う。待っている間、頭に浮かぶことというのは、不幸なことになった場合の連絡先はどこかな、交友関係が広い人だから葬式は密葬ではない方がいいだろうな、コロナウイルスもあるから会場前に献花台を用意してもらおうか、どこにお願いするか、父親のときに世話になった赤坂葬祭さんだな、キリシタンだから司式は函館千歳教会の牧師先生にお願いしよう、お墓も千歳教会のお墓が舟見町にあつて景色も良いからそこに埋葬してもらおう、お墓参りの帰りには近くに良いカフェがあるからそこに寄ろう、等々、わりと冷静に考えていた。結果、不幸なことになることも無く、後日の説明では、リンパ節転移は無く、stageはⅡとのこと。うーむ、やはりリンパ節の診断は難しいな。畑中先生、ありがとうございました。コロナウイルスの影響で合唱団の練習再開がいつになるかわかりませんが、引き続き母をよろしくお願いいたします。笠島先生、ありがとうございました。母は元気です。母のお礼を形にすることはお立場上問題が生ずるかもしれないので、先生は畑中先生と同期で、ともども私と高校の同窓ということが判明したので、ミニ同窓会というものを開けたら良いですね。コロナウイルスの影響でいつになるかわかりませんが、その他、母にかかわっていただいた、スタッフの皆さんありがとうございました。コロナウイルスの影響で見舞いに行けず、なかなか接することもできませんでしたが、お世話になりました。今後ともよろしくお願いいたします。

ということが、コロナウイルスの緊急事態宣言下でありました。どうやら2000字を超えたようなので、今年の緑陰随想のお役目を終えたいと思います。1年後が穏やかな日常でありますように。